

第7回 IT を活用した教育センターワークショップを終えて



昭和大学歯学部 歯学部 片岡 竜太

平成24年度に「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成プログラム」が文部科学省の大学間連携共同事業として採択されてから3年6ヶ月が経過しました。平成27年度4月に文科省の中間評価が行われ、皆様方のお陰で「計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。」というA評価をいただきました。WSの前日6月3日に本取組の成果を公開する第1回公開シンポジウムを昭和大学旗の台校舎で開催しました。奥州市国保衣川歯科診療所 所長 佐々木勝忠先生に「卒前教育、卒後教育(歯科臨床研修)に求めるもの～NST連携、介護連携の実践の中から～」というタイトルでご講演をいただきました。保健・医療・福祉が一体化された施設の歯科診療所で長年多職種連携医療に取り組みながら、学生や研修医の指導をされている経験をもとに、「低栄養」と口腔内の状態の関連に関するお話をいただきました。非常にわかりやすく説得力のあるお話でなぜ歯科医師が超高齢者に対応するチーム医療の一員になる必要があるのかが明確になり、今後の取組に大変参考になる内容でした。

6月4日に開催された第7回のITを活用した教育センターWSでは、9時から**セッション1:大学教職員セッション「Step1,2 ITを活用した授業の改善について 1. E-ラーニング・VPの更なる改良 2. 今年度のITを活用した授業の最終準備」**を行いました。今回は特に、「事前学習課題」「プレテスト」「自由・症例課題」「ポストテスト」「復習課題」という明確なラベルをe-ラーニング教材内につけ、この授業の進め方が学生に分かりやすくなるようにしました。**セッション2:「Step3(5年生に対する)教育を確立する」**では、臨床実習で患者の診療に参加する直前に、今まで学んだ知識を確認し、実習をシミュレートして応用しやすくするための症例ベースの教材案を検討しました。**セッション3:「歯科医師会と連携した教育の充実を図るー地域医療実習ー」**では、まず3連携大学が関連歯科医師会の協力、指導を受けて行っている地域医療実習を紹介しました。その後で他大学の地域医療実習の良い部分を取り入れて、大学毎で歯科医師会と大学の教員が混じったグループで各大学の地域医療実習のブラッシュアップを行いました。歯科医師会の先生方からの活発な発言があり、討議は盛り上がりました。

皆様方のご尽力で3連携大学と9歯科医師会の取組において、方向性が決まって、着実に動き出すことができたという印象を持ちました。この教育を受けた学生が主体的に学び、将来歯科医師会で患者のための地域医療を担うことを期待します。

最後になりましたが、参加していただいた各大学の皆様、歯科医師会の先生方、IT企業の方々、WSの運営にご尽力いただいた本学事務関係者、フォトセンター、総合情報管理センター、ITを活用した教育センターの皆様にご挨拶申し上げます。今回は11月26日にまたお目にかかることを楽しみにしております。